

# 野球観戦にハマッタ、いや実は応援に！ ルールはあやふや、でも歌ったり跳ねたり

先日、二人の先輩と友人に連れられ、野球観戦に出かけた。

試合は千葉マリンスタージアムでのロッテ対楽天戦だ。

このメンバーで野球を見に行くのは2回目。前は東京ドームでの阪神対巨人戦だった。実は私は、テレビ中継も含めちゃんと野球を見るのは初めて。野球のルールもかなりあやふやだった。しかし、1回目の野球観戦で大ハマリしてしまったのである。

待ちに待った試合当日。天気はあいにくの霧雨。私たちはロッテ側の応援席に座った。しばらくして試合が始まり、1回裏、ロッテの最初の攻撃がまわってきた。

するとロッテファンはいきなり総立ち。さらに応援歌の熱唱である。あまりの急展開に私は出遅れてしまい、あわてて立ち上がる。歌詞を覚えようと歌に耳を傾けていると、なんとなく阪神対巨人戦のときとは違う雰囲気があった。

一緒に歌っているうちに、それが何だったのがわかった。全体の歌声の低さである。阪神対巨人戦では黄色い声援も多かったのだが、今回は黄色い声はほとんど聞こえず、かわって力強い太い声ばかりであった。

あわてて周りを見渡すと男の人ばかり。その後も総立ちのまま、バッターボックスに立つ選手に合わせて歌ったり跳ねたり、大迫力の応援が続いた。気づけば、すっかりロッテファンになりきっていた。

そしてこの日の試合は6-1とロッテの快勝となった。

前回は阪神、今回はロッテを応援し、両方とも相手に大差をつけての勝利となった。もしかして私の応援のおかげ(?)などと勝手なことを考えながら二つの試合を振り返ってみる。すると浮かんでくるのは、興奮した球場の雰囲気やそれぞれの独特の応援だ。試合内容はあまり浮かんでこない。もしかして私は、

応援に夢中であり試合内容を把握できていなかったのではないだろうか、いや間違いないと思う。

## 『男をつらいよ』全48作を夏までに観る 思い立ったらすぐ実行と、自らに課す

3年生になったのにも関わらず、相変わらず月曜から土曜まで毎日大学に通っている。友人の中には、週3日しか大学に来ないとか、週4日しか来ないという人もいる。が、私は週6日通っている。更に日曜日には、レポートや宿題、課題などを何かしら抱えている。どこかへ出かけるとしたら、近所の本屋か図書館くらいしかない。要するに、私は週7日「大学漬け」ということだ。

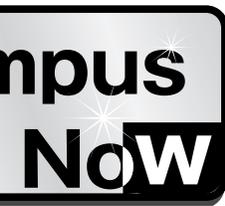
大学生なのだから「大学漬け」は当たり前なのかもしれない。私は暇でいるよりもどちらかというと忙しい方が好きなので、今の状況が嫌いではない。しかし、大学生でいられるのもあと2年。もうすぐ本格的に就活も始まる。やりたいことをやるには今しかないと思っていた。そんなある日、ある

私が本当にハマっていたのは野球観戦ではなく野球応援の方だったのである。(怜)

きっかけで映画『男はつらいよ』の寅さん役でお馴染みの渥美清さんが中大の先輩であることを知った。(経済学部中退、商学部中退、実は学歴詐称で中大に入学すらしていないなどの噂があり、真実は定かでないのだが)

その時、何故だか分からないが、「これは何かの縁」と感じた。それでは、元々好きだった『男はつらいよ』を夏までに1作目から48作目まで全て通して観ようと思い立った。『男はつらいよ』を48作通して全て観ることが本当にやりたいことなのか、自分でもよくわからない。だがこの日から私の『男はつらいよ』鑑賞生活が始まった。現在、1週間に最低4作は観ている。(5月23日現在16作目まで鑑賞)。

映画を観ていると、今度はふと柴又に行ってみたくなった。普段なら





宿題や課題があるから行けないと諦めてしまふところだが、「行くなら今しかない!」と開き直り、宿題、課題を放り出して早速、片道2時間かけて柴又へ。そこには、映画で観ていた帝釈天があり、団子屋があり、佃煮屋、煎餅屋、飴屋があった。八王子では決して感じられない下町の風情がそこにはあった。東京の中にも全く違う別の世界が存在することを改めて実感。2時間掛けてま

## 突然、目の前で男性がホームから転落 電車入線1分前、どうしたらいいの!

「35分の電車に乗るよ」  
バイト帰り、駅のホーム

で音楽を聴きながらそんなメールを私は母に打っていた。周りには仕事帰りの会社員が数人と、同世代の女性がいる。ありふれた光景だ。

「キヤー!!」女性の叫び声で前を見ると、さっきまで普通に電車を待っていた男性が痙攣を起こし、ホームから線路に落ちる瞬間だった。時刻は午後8時34分。電車が来るまであと1分。私は音楽を止め、やっとその状況を理解する。近くにいた

で来た甲斐があった。大学生は大学にいるだけかすべてじゃない。思い立ったことをすぐ実行に移せるのは大学生だけ。「たまには、フラフラッと家を飛び出して、知らない場所に行ってみるのもいいもんだよ」。そんなことを寅さんは私に教えてくれたような気がする。

(上)

女性は列車緊急停止ボタンを押し、救急車の手配を頼む。私は3歩後ろにさがる。恥ずかしいことに声も行動も出来ない。

結局私がしたことは、駅員さんのところに急報に行く男性の後ろについていき、「下に人がいます!」と言っただけだ。

その間に、現場の周辺にいた男性たちが線路に降りて、彼をホームに上げた。女性の駅員さんは小さい体で痙攣する彼の体を抑え、出血している頭部にハンカチを当てて、「大

丈夫ですよ」とずっと言い続けていた。もう一人の駅員さんは、止まった電車をすぐに走りらせる手配をした。近くにいたおばさんは救急車に電話をした。さっきの女性は、ハキハキと状況を説明していた。

とっさの行動をたくさん人がしていた。本当に情けないが、私は何も出来なかった。ただ、人のはかなさと人の温かさを感じた。結局私は何も出来ぬまま5分遅れの電車に乗り、家に帰った。何も出来ない自分がただただ悔しかった。

(N)

## 大学生生活最後の年に、アートな日々 ゆつたり考えることの大切さを知る

アートに目覚めるお年頃、かしら。大学生生活最後の年、S子が取った授業は一般教養の中の美術めいたものばかり。法学部だということに、全く法律関係の授業は取っていないという…(笑)。きつかけは、美術系の大学へ通っている友人と、ことし3月に目黒区美術館へ行ったことだろう。

初めて知ったのだが、「ぐるっとパス」というお得なパスがある。東京都内の61もの美術館・博物館を巡ることが出来るのだ。それを買った期限内に色々見ておきたいという思いからも、1週間に1度くらいは美

術館・博物館に足を運ぶようになった。せっかく都心に出たのだから、元を取ろうと思つて1日に何軒も回るのは好ましくない、自分の中で消化出来ない、ということを見つけた。数多くのものを短時間でさっと見るよりは、いくつかのものを集中して鑑賞すべきだ。

ゆとりをもつて考える、疑問を抱くという行為をすることにより、その方が確実に自分のためになる。少しいただが、S子は確実に考え方が成長した。そんな気がする。浮世絵の展示を見に行ったときのこと。4人の人物が描かれていて、

うち1人だけ眉がなかった。描き忘れたか、いや有名な画家なのだからそんなことはあるまい……と疑問がぐるぐると頭を巡った。

忘れないために、それをパンフレットにメモ。後日、授業でたまたま先生が話してくれた。「眉がない女性＝既婚者です」との解説に、おおなるほどと感動したS子。注意深く鑑賞していて良かった、とニヤリ。

週1回しか大学に行かなくても良

## 懐かしさから買いすぎてしまった駄菓子 遊び心に楽しさが加わったおやつ

生協で行われていた『駄菓子フェア』に立ち寄った。懐かしい！と思いついつい買いすぎてしまった。

私が小さかった頃に使っていたお菓子は、現在もスーパーやコンビニで売られている。でも駄菓子だけはない。だから駄菓子を懐かしいと思ってしまうのだろう。

私の親の世代では、駄菓子屋さんがあちこちにあり、学校帰りなどに友達とよく買いに行った、とい

いこのお得な(?) 時期に、今しか出来ないことをしておこうという思いが高まる。まだ若い、感受性が豊かであろうこの年代にしか感じるこの出来ない思いもあるはずだ。

良いものを沢山吸収し、大学生の間に人間としての幅を少しでも広げたい。常に、感動しやすい人間でありたい。その思いから、新しいものをどんどん見ようという気持ちになるS子であった。

(桃)

う。駄菓子は値段が手ごろなだけでなく、「当たりが出たらもう一個!」といったように、「遊び心」がある。その日の運勢を占っているようで、そのことも駄菓子を買い楽しむの一つだったと言います。

小学生の頃、親から駄菓子屋さんの話を聞き、母と家の周りで駄菓子屋さんを探したところ、一



軒だけおばあちゃんが開いている駄菓子屋さんを見つけた。見たことのない、おいしそうなお菓子や、食べて大丈夫かな?と思うようなお菓子がたくさんあった。そして、その日から私のおやつに駄菓子が加わるようになった。

駄菓子は、今の子供達にとって遠

い存在のようだが、近い存在にもなりやすいものだと思う。なぜなら、親が大好きだった駄菓子は、私も大好きだからだ。駄菓子が買える場所が少なくなっている中で、これからも『駄菓子フェア』が開かれるのを楽しみにしたい。

(梓)